校内研修計画

山梨市立日川小学校

１　学校課題

本校では、各種調査から、国語・算数ともに、「思考・判断・表現」および「書くこと」に課題があることが明らかになった。問われていることや提示資料を正しく読み取る力、条件を満たす「言葉」「数値」を見いだし、自分の考えを文章で表現する力を高める必要がある。

２　研究主題

主体的・協働的に学び、豊かに表現する児童の育成

～ＩＣＴを活用した学びを深める授業づくりを通して～

３　主題設定の理由

令和３年度より、児童一人一人に個別最適化された学びや、創造性を育む教育のためのＩＣＴ環境の実現に向けて、ＩＣＴ端末や通信ネットワークの整備も進められてきた。昨年度は、オンラインによるＩＣＴ研修による指導者のスキルアップを進めながら、児童の端末操作のスキルアップも同時に進めてきた。学年の発達段階もあるが、ＩＣＴを活用することで児童の学びが深まる授業づくりにはさらなる研究が必要である。また、協働的な学びをどのように展開していくのかが、児童の学びを深めることにつながっていくと考えられる。

今年度も、学習者主体の授業を目指し、協働的な学びを通して児童一人一人が思考を深め、より豊かに表現できるようにするための手立てを探求したい。また、児童が課題解決に向けて試行錯誤を繰り返したり、学びを振り返り、次に生かしたりする姿を目指していきたいと考え、今年度も昨年度にひき続き、本研究主題を設定した。

４　研究の具体的内容と方法

（１）授業研究　〇授業参観　・日常的に空き時間を活用しての参観　〇一人一実践

（２）理論研究　〇外部講師による学習会　〇センター研修

　　　（ア）ICTと紙媒体の使い分けについて

　　　（イ）学習過程におけるICTの効果的な活用について

　　　（ウ）個別最適な学びについて

（３）学級力向上プロジェクト　〇学級力向上アンケート（端末活用）

（４）ＩＣＴ研修　〇授業参観　・日常的に空き時間を活用しての参観

〇外部講師による学習会　〇校内研修

（５）今日的教育課題関連の学習会

５　年間研究計画　　＊がついている日は職員会議後、校内研を行う。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| No. | 月 | 日 | 研究内容 | 担当 | 備考 |
| 1 | 4 | 9 | 今年度の研究について① | 研究 |  |
| 2 | ４ | 16 | 今年度の研究について②　確定学級力アンケートについて | 研究情報 |  |
| 3 | ４ | ＊30 | 緊急時対応研修会 | 養護教諭 |  |
| 教協 | 5 | 7 | 東山春季教研（塩山南小） | 各自 |  |
| 教協 | ５ | 14 | 山梨南ブロック交流研究会①（担当：日川小） | 日川小 |  |
| 4 | 6 | 4 | 理論研究① | 研究 | 講師要請or校内研修 |
| 教協 | ６ | 11 | 教協 | 各自 |  |
| 5 | 6 | 19 | 理論研究② | 研究 | 特別研修会Ⅰ |
| 6 | 7 | ＊2 | 理論研究③ | 研究 | 講師要請or校内研修 |
| 7 | 7 | 16 | 学級の課題把握 | 個人 |  |
| 教協 | 8 | 8 | 教育講演会、教協 | 各自 |  |
| 8 | 8 | ＊20 | 教育課程還流報告 | 該当者 |  |
| 9 | 9 | 3 | 授業研究① | 個人 |  |
| 教協 | 9 | 10 | 統一授業研① | 各自 |  |
| 教協 | 9 | 17 | 東山秋季教研 | 各自 |  |
| 10 | 10 | 8 | 授業研究② | 個人 |  |
| 11 | 10 | 22 | 実践計画① | 個人 |  |
| 12 | 10 | 29 | 実践計画② | 個人 |  |
| 13 | 11 | 12 | 今年度のまとめ、来年度への方向性① | 研究 |  |
| 教協 | 11 | 19 | 山梨南中ブロック交流研究会② | 研究 |  |
| 14 | 12 | ＊3 | 実践のまとめ | 個人 |  |
| 15 | 12 | 10 | 今年度のまとめ、来年度への方向性② | 研究 |  |
| 教協 | 1 | 14 | 教協 | 各自 |  |
| 16 | 1 | 21 | 次年度の構想 | 研究 |  |
| 教協 | 1 | 28 | 統一授業研② | 各自 |  |
| 17 | 2 | ＊4 | 研究紀要の作成① | 研究 |  |
| 教協 | 2 | 18 | 東山冬季教研 | 各自 |  |
| 18 | 2 | ＊25 | 研究紀要の作成② | 研究 |  |

（研究主任　望月　清美）